

平成26年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(雀宮地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

<p>平成26年度 第10回 まちづくり懇談会《雀宮地区》実施結果報告書</p>
--

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《雀宮地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成26年12月11日（木）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 雀宮地区市民センター
- 3 参加者数 31人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当参事，
雀宮地区市民センター所長，道路建設課長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

雀宮地区まちづくり推進協議会会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	空き地，空き家，遊休地などの管理体制について	生活安心課 環境保全課
2	雀宮地域の産業振興＝町の活性化について	商工振興課 政策審議室

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ		
市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために		
(1) 高齢期の生活を充実する		
(2) 愛情豊かに子どもたちを育む		
(3) 日常生活の安心感を高める		
(4) 危機への備え・対応力を高める		
No.	意 見	所 管 課
1	道路整備について	道路建設課

		道路保全課
2	バスの運行について	交通政策課 高齢福祉課

(5) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	河川の護岸等の樹木の伐採について	河川課
2	田川サイクリングロードの整備について	交通政策課
3	学校の見守り活動の見直しについて	学校健康課 生活安心課
4	自治会会員減少対策について	みんなでまちづくり課
5	うつのみや子どもかがやきプランについて	教育センター
6	教育の重要性について	学校教育課 生涯学習課 学校管理課 学校健康課

(6) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 篠崎 光男

(7) 市長謝辞

■地域代表意見 1（要旨）

テーマ	空き地，空き家，遊休地などの管理体制について
------------	-------------------------------

雀宮地区における各自治会も高齢化や少子化が進んでおり，私たちの周りでも管理が行き届かない空き家や空き地が数多くあり，今年8月に調査した雀宮地区における管理不全な空き家は47件，管理不全な空き地は12件であった。

それらの空き地等を放置しておくともゴミが捨てられたり，木の枝や雑草が伸びて通行上邪魔になったり害虫が発生したりするなどの悪影響が生じてくる。

土地の管理者がきちんと管理するのが基本だと思うが，きちんと管理していない場合が多く，これからも増えるのではないかと懸念をしている。

このような状況の中，本年7月に「宇都宮市空き家等の適正管理及び有効活用に関する条例」が施行されたところだが，残念ながらまだ私たちの目に見える効果のようなものは見えてきていない。

この条例の本来の趣旨である，空き家等が周辺的生活環境を害し，及び市民等の生命，身体または財産に被害を及ぼすことを防止し，もって市民等の良好な生活環境の保全及び安全で安心な魅力ある地域社会の実現に寄与するために，市では今後，どのような具体的施策を行っていくのかお尋ねしたい。

回答	所管課：生活安心課，環境保全課
-----------	------------------------

【市長】

全国的に問題になっている空き家，空き地の問題であるが，これからもますます増えると思う。皆様のお力をお借りして，安全で安心なまちを維持していく努力がこれから必要になる。そのような中，管理不全な空き家や空き地の所在を把握していただき，この場を借りて感謝申し上げます。

所有者による管理が大原則であるが，高齢化や相続放棄などにより管理不全の物件が出てきてしまう。条例の目的や所有者の責務などに関して，市ホームページや広報紙，自治会回覧などにより，広く市民の皆様に対して周知・啓発を行っている。

こうした中，条例の施行に伴い，市民の空き家等の問題への関心が高まり，相談件数は，今年の4月から10月までの7か月間で空き家約700件，空き地約500件にのぼり，昨年度1年間の空き家約200件，空き地約450件を大幅に上回る状況となっている。また，所有者の約半数が市外に居住している状況の下，条例を根拠とすることで，他の自治体に対する調査が行いやすくなったため，事案の所有者等を速やかに特定し，円滑に指導が行えるようになったところである。

このような指導の結果，繁茂した雑草の刈取りや樹木の伐採，空き家の修繕が行われるなど，所有者の管理意識が徐々に向上されていると感じており，雀宮地区においても，自治会による調査で把握されたものも含めて，周辺住民からの相談事案のうち，空き家11件，空き地3件の問題が改善された。これも条例による一定の効果である

と思っている。

しかしながら、問題解決においては地域の方々が雀宮地区のように立ち上がっていただくのが大切だと思う。日頃から、ご近所同士の付き合いやコミュニティにおけるつながりをつくっていただければ問題を未然に防いでいくことが出来ると思う。引き続き、日頃の声かけなどにより、管理不全な空き家等の発生防止や空き家等の状況確認などに皆様のお力をいただきたい。

皆様のお力をお借りするため、住宅地図を購入して空き家等の所在を地域でわかりやすく共有するなど地域の活動の一助となるよう「空き家等対策地域活動費補助金」を今年度創設したので活動の際には活用いただきたい。

市としても周辺住民の生命、財産を守るためにも改善を義務付けるための空き家・空き地等への「命令」を行うなどにより、適正管理を徹底するとともに、空き家等を地域の貴重な資源として捉え、地域、事業者、行政が一体となって有効活用を図り、安全で安心なまちをつくっていきたいと考える。

まず、「命令」を行い、「命令」に従わない場合は、氏名の公表や5万円以下の過料を科すことを条例に加えた。しかし、台風が迫っていてトタン屋根が半分剥がれていて飛ばかわからないような場合など緊急に危険回避をしなければならない場合は行政として対応していく。この条例を活かし、皆様方のお力をいただいで空き家、空き地への対策を行っていきたいと思う。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	雀宮地域の産業振興＝町の活性化について
------------	----------------------------

雀宮地区は、近年、本市の南の玄関口として雀宮駅舎をはじめとする周辺整備や南図書館の開設、宇都宮工業高等学校の移転など、宇都宮市が目指すネットワーク型コンパクトシティの南部の地域拠点にふさわしい機能の充実が図られてきているところである。

また、当地域は戦後宇都宮のベッドタウンとして人口が増加し、今もなお魅力ある地域として住宅街を形成しているが、住民がいつまでも住み続けたいと感じる、豊かで活力あるまちづくりを推進するためには、地域産業の活性化や雇用の確保・拡大が不可欠である。様々な産業が集積し、農業、商業、工業の調和が取れて初めてネットワーク型コンパクトシティが成り立つと思う。

そこで、市の当地域における産業振興の考え方、具体的な施策について伺う。

1点目として、当地区の東部に「インターパーク」が出来たことにより、特に若年層のショッピングやレジャーは充実してきているが、反面、中央に位置する旧雀宮地域の商業は衰退してきている。一方、雀宮地区は、早くから住宅地が形成されたことにより、高齢化率も高い状況である。こうした中、居住地に身近な既存の商店や食堂

を活性化することで、有効な交通手段を持たない老人にとって利便性の良い住みよいまちをつくっていただきたい。

2点目として、当地域のまちの拠点であるJR雀宮駅周辺エリアは、まちの活気や活力をあらわす顔であり、その賑わいは、まちづくりの重要な要素であると考え。停車場線を含む駅西口エリアは商業地域に用途指定されているが、民間活力を待つばかりでは、市の地域拠点としての商業振興は望めない。まちづくりの観点から行政として商業店舗を誘導するなどして推進すべきと思うがいかがか。

3点目として、雀宮地区内には、軍需工場があったことなどから古くから多くの工場が進出し、地方には珍しく工業地域、準工業地域の用途指定がなされている。既存の企業が安定して事業運営を図るための支援はもとより、新規開業も含む企業の誘致など、工業を振興することにより、身近な地域での雇用の確保やまちの活性化につながると思うが考えを聞きたい。

回 答	所管課： 商工振興課， 政策審議室
------------	--------------------------

(1)既存の商店・食堂の活性化について

(2)雀宮駅西口エリアの商業振興について

【市長】

インターパークなどの大型商業施設ができたことにより雀宮地区の商店街が影響を受けているということであるが、中心市街地も商業施設や商店も含めて元気がない状況である。中心市街地の活性化のために様々な手を打ってきた。オリオンスクエアが出来、土日はほぼ毎週のようにイベントを行っていただけるようになり通行量は以前より増えたが、あまり売上げには繋がっていないそうである。

そのような中、オリオンスクエアの正面にある宇都宮のアンテナショップ「宮カフェ」は活性化に寄与している。やはり工夫と努力をしていかなければならないと思う。

行政もあらん限りの力を出す、駐車場完備で品揃えもよく一日いても飽きない大型商業施設に対して小さな商店や商店街は違うカラーを出していかないと難しいと思う。加えて、地元の方が積極的に地域の店を利用し、地域の店を守っている姿を見せることも店舗の誘致へ繋がると思う。

また、公共交通を充実させ、JR雀宮駅を中心とする拠点などへ誰もが自由に移動することのできる環境を整えることが重要であることから、現在、雀宮地区の一部地域で導入されている地域内交通を全域に広げるよう、地元で検討を進めていただきたい。

地域商業の活性化については、地域の商店街組織に対し、イベントなどの販売促進事業に加え、商店街の魅力を高めるための街路灯の設置や電灯料への支援などを行っている。そうしたものも併せて活用していただきたい。

(3)雀宮地区における工業振興について

【市長】

雀宮地区は、戦時中に軍需工場が作られ、その周辺に商店街などが形成され、古くから本市経済の発展に寄与していただいております、感謝申し上げます。

これまで新規企業への立地補助制度や既存企業に対する補助制度を創設してきた。産業は雇用の創出や税収のアップ、消費の拡大に繋がるので今後もこうした支援を行うとともに中小企業の機械設備の高度化等への支援も行っている。一度立地していただいた企業は逃がさないという気持ちで行っているが、NECトーキン栃木跡地が住宅用分譲用地及び大規模小売店舗として開発を行っている。準工業地域の大部分が陸上自衛隊宇都宮駐屯地であるため、企業誘致に適した土地が少ない状況であるが、雀宮地域における商工業の振興については、引き続き限りある土地であっても行政として積極的に動いていきたいと思う。

■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために (1) 高齢期の生活を充実する (2) 愛情豊かに子どもたちを育む (3) 日常生活の安心感を高める (4) 危機への備え・対応力を高める
------------	--

総合計画はまちづくりの基本となる計画である。5年後の市民の幸せ、100年後の市の繁栄を目指した計画を作っている。

(1) 高齢期の生活を充実する

今年10月4日から7日まで「ねんりんピック」を開催した。雀宮地区では雀宮体育館で健康マーチャンの開催をし、雀宮地区まちづくり推進協議会の方々や多くのボランティアの方々にご協力をいただいた。自分のことを市長だと知らずに「おもてなしが素晴らしかった」と他県の方々から話をいただいた。地域でおなじみの「ちゅん鍋」をねんりんピックに合わせて中学生がアレンジしたふるまい鍋は大変好評だった。皆様方の献身的なボランティア活動に心から感謝を申し上げます。

また、高齢者の方々や若い世代の方々が調和を図り、まちづくりを進めていることも雀宮地区の特徴だと思う。

少子・超高齢社会を迎えるにあたり、肥満や生活習慣病を予防するために、市民の健康づくりを推進していく。たとえ病気や認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来るよう、医療・介護・福祉が連携したケア体制の充実これが必要になる。

あわせて高齢者の方が、身に付けた知識や経験を地域に活かし、後世に伝えていき

ながら住み慣れた場所で安心していつまでも生活が出来ることが重要と考える。

こうした理由から「高齢者が自らの介護予防に積極的に取り組み、住み慣れた地域の中で、健康で生きがいを持ち、また、介護が必要となっても尊厳を維持しながら、安心をして自立した生活を送る」を今後5年間での望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は「高齢者の社会参画の推進」である。自分はまだまだ社会に貢献できる、仕事がしたいという方にはシルバー人材センターに登録をしていただき、働いていただく。また、ボランティアで社会貢献をしたいがどこに行けばいいのかわからないという方にはみやシニア活動センターが様々な情報を提供する。

また、高齢者が生き生きとした高齢期を過ごすことが出来るよう、「高齢者等地域活動支援ポイント事業」により、ボランティア活動に対してポイントを付与する事業を実施している。ポイントの交換は来年4月からを予定している。

主な施策指標は「高齢者がボランティア活動に参加している割合」の増加である。皆様方には支える側になっていただき、いつまでも支えていただく役割を担っていただきたい。

(2)愛情豊かに子供たちを育む

平成25年度の宇都宮市の人口は51万6千人であり、15歳未満の年少人口は総人口の14パーセントにあたる約7万1千人である。また、16年後の平成42年は宇都宮市の人口が約1万1千人減り約50万5千人になり、年少人口は約5万6千人に減少する。

今後、子どもの全体数は減少していくが、平成27年度の「子ども子育て支援制度」の移行に伴い、サービス提供の対象が拡大されることから、当面、保育需要の増加や子育て支援サービスに係るニーズの多様化が見込まれる。

また、核家族化による二世帯構成の変化により、家族や地域で子どもを育てていく考え方が必要になり、地域、事業者、行政等が連携し、子育てに優しい環境をつくる必要がある。

子ども達の環境は、学校やPTAだけでつくることは出来ない。そこに地域の方々や企業の方々に加わっていただかないと子ども達にとって良い環境をつくり出すことは難しい状況である。

これらの理由から、「地域社会が一体となり、子育ての支援に取り組み、子育て家庭が愛情を持って安心して子どもを生き育て、子どもが生き生きと子どもらしく育っている」を今後5年間での望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は、「妊娠出産に対する支援の充実」である。宇都宮市は妊娠健診に係る費用を14回まで助成をしており、これは全国トップクラスである。そのほか、「子どもの健康支援の充実」「保健所、認定子ども園の整備促進」などであり、宇都宮市は毎年4月時点で、3年間連続で待機児童ゼロになった。年間を通して、

どのような状況の中でも待機児童をゼロにすることを目標としていきたい。

主な施策指標は「子育てに不安や負担を感じる人の割合」の減少などである。

(3) 日常生活の安心感を高める

宇都宮市では空き家や空き地が適正に管理をされていない状況がまみられる。生活環境を害する問題やオレオレ詐欺や還付金等詐欺をはじめとした特殊詐欺被害が増加をしている。宇都宮市では平成25年は73件、約4億8千万円の被害があった。

地域ぐるみの活動を促進し、市民・事業者・行政の連携を強め、日常生活の安心感を高めることが重要である。

これらの理由から「地域社会や事業者、行政が連携して、日常生活を取り巻くさまざまな不安を解消し、市民が、安全で安心した生活を送っている」という姿を、今後5年間での望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業は「防犯環境整備の推進」「交通安全教育の推進」などである。

施策指標は「市内における人口千人あたりの刑法犯の認知件数」「交通事故発生件数」の減少などであり、刑法犯認知件数は平成19年に1万件を割り、引き続き件数は減っている。警察の方々や各自治会の方々のお力によりこの数字になっているのだと思うが、さらに安全で安心なまちを目指していく。

(4) 危機への備え・対応力を高める

東日本大震災や最近の異常気象より安全・安心なまちづくりへの関心が高まっている。災害による被害を最小限に抑えるためには、日頃からの備えが必要になる。そのようなことから、防災備蓄庫を14箇所から15箇所に増設するとともに、災害初動時において一時的・緊急的に被災者を受け入れる備蓄避難所を市内39地区の自主防災会に整備をした。

雀宮地区においては備蓄避難所に雀宮中学校を指定したが、備蓄避難所は地域の実情に応じて拡充を図ることとしており、各地区の自主防災会に対して意向調査を行い、多くのご意見をいただいた。

雀宮地区からは備蓄避難所の拡充要望のご意見をいただいた。必要なものは設置をして行きたいと思うので協議を行っていきたい。

これらの理由から「市民、地域、行政の危機への備え、対応力が高まり、地震や風水害をはじめとするさまざまな危機が発生した場合に、適切な行動が出来るようになっている」を今後5年間での望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた事業として、情報通信技術であるICTを利用した情報伝達体制の確立を行う。例えば、専用のスマートフォンで被災現場の映像を対策本部等に送信するシステム整備を平成26年度に新規事業として行った。

また、防災行政無線であるMCA無線を増設して連絡体制の強化を行い、避難所、消防団、民間福祉避難所への配備を608台に増設した。

施策指標は「自主防災会を中心とした各地区防災会訓練開催数」の増加などである。

発言 1 道路整備について

1 市道710号線について

自衛隊前から道路が出来たが、その途中に90度のカーブがある。今年の9月に開通した道路であるが、なぜ、あのような90度のカーブの道路になったのか。自衛隊前から直進で新4号まで抜けるなどの都市計画があるのか。そのような案があれば説明してほしい。

また、そこは夜、真っ暗になってしまうので街灯の設置を要望する。

2 生活道路の溢水対策について

メインとなる道路は確かによくなったが、生活道路は15年前と変わらない。今年の夏、歩いて通れないほど水が溢れてしまい、現在も数箇所ある。道路保全課、道路建設課へも再三要望している。これが地元の要望である。即急に対応をお願いしたい。

3 市道5730号線について

雀宮駅東口と図書館の間に丁字路の道路が出来ているがあそこはあのままなのか。それとも都市計画等があるならば、まっすぐインターパークまで延ばしていただきたく、即刻お願いしたい。

回答 所管課：道路建設課、道路保全課

【市長】

1 市道710号線について

道路の件については後で聞かせていただく。

また、街灯の件についても道路と併せて返事をする。

2 生活道路の溢水対策について

生活道路の溢水について、陽東地区でも3時間50ミリ以上の雨が降り、今まで宇都宮がつくってきた都市整備では追いつかなくなってしまった。

まず、溢水対策について、ゲリラ豪雨や天候に左右されるような異常気象は起こると思うのでまず河川の整備をするが、下流からの整備になるので時間がかかる。時間がかかるからといってそのまま放っておくことは出来ない所以途中で調整池をつくり、そこで一度飲み込ませてあまり下の方に迷惑がかからないような整備をその箇所その箇所で調査をして現在行っている状況である。ご指摘いただいた生活道路で溢水被害が起きているところについて現地に入らせていただきたいと思う。後で時間をいただ

き案内をしていただきたいのでその時はよろしく願います。

3 市道5730号線について

南図書館前の道路について、インターパークまで延びれば便利ではないかということだと思うが、都市計画あるいはそれぞれのまちのありかたや拠点づくり、ネットワーク型コンパクトシティを進めていく中で今後、考えていきたいと思う。雀宮駅東側は開発をしたばかりなので時間をいただきたいと思う。

【後日対応】

※平成26年12月～平成27年2月 発言者へ説明

1 市道710号線について

本路線は、自衛隊前の国道4号から茂原地区の市道1767号線までの全延長約1,400mであり、茂原地域の幹線道路として平成14年度から事業を進めてきたところである。

道路整備については、国道4号からクリーンパーク茂原へアクセスする丁字路までの約800mが完了したところである。

しかしながら、丁字路から東側については、一部用地が取得できない箇所があり、事業に着手できないことから、未整備となっている。

未整備区間については、今後、地域住民の協力を得ながら事業を進めていく。

また、街灯（道路照明）については、交通量の多い都市計画道路等の幹線市道の橋梁部や交差点等に設置し、夜間交通の安全を確保しているところである。

なお、要望箇所の夜間交通の安全については、自治会による防犯灯の設置で対応をお願いしたい。

2 生活道路の溢水対策について

要望箇所の生活道路については、平成22年5月に茂原東自治会から道路の溢水対策を含めた拡幅要望書が提出されている。

全延長580mの道路については、道路全体の雨水排水先が南側になり、道路の形状により道路雨水の排水先が確保できない状況であるが、北側の東西道路、延長80mの雨水排水先を西側に変えることにより、溢水軽減が図れることから、今後、地元自治会の協力を得ながら、拡幅整備に併せて溢水対策を進めていく。

また、残りの区間については、道路の形状により道路雨水の排水先が確保できないことから、整備が困難であることを御理解いただきたい。

発言 2 バスの運行について

市はもったいない運動を行っているが、雀宮地区のバスはいつもがらがらである。みやバスのコース変更をしてもっとまめに走らせればよいのではないかと。

また、雀宮駅からクリーンパークの健康交流センターまでバスが出ている。これもがらがらであり、もったいない。13年続いているが、巡回バスのコースを変えれば利用率が上がるのではないか。

回 答	交通政策課, 高齢福祉課
------------	---------------------

【市長】

健康交流センターの送迎バスに人が乗っていないのではないかとということだが、行政が運行している健康交流センターへの送迎バスや老人福祉センターへの送迎バスはルートを変えたりしてなるべく需要にあうようにコースなども変えている。ご意見や利用者の要望をもとに弾力的に運行コースを設定しているので、今後とも、弾力的に対応していきたいと考える。

■自由討議（要旨）

発 言 1	河川の護岸等の樹木の伐採について
--------------	-------------------------

新川の護岸等から雑草や樹木が伸び、市が定期的に伐採してくれているが、業者によると契約内容の規定から、幹の太さが2センチを超える樹木は伐採してもらえない。年々太くなり、伐採した後でも数か月するとすぐ芽が出てしまう。伐採については根が残らないようにし、護岸のコンクリートブロックが急流で揉まれるので、護岸を直していただきたく願います。根元まで取り除くような対策を講じていただきたい。

回 答	所管課：河川課
------------	----------------

【市長】

河川の管理については、ご指摘のとおり、除草と樹木の伐採の2つに分けて発注している。

ご指摘の件については、なるべく今月中に発注出来るように指導をしていきたいと思う。

除草と伐採の両方を出来るような発注の仕方や方法も変えていきたいと思うので、まずはご指摘があった所は今月中に発注をして今月か来月にやってもらえるように業者へ依頼をしていく。

発 言 2	田川サイクリングロードの整備について
--------------	---------------------------

自分達雀宮地区の住民は身近な生活環境に溶け込んだ数多くの文化財や豊かな自然に恵まれた地域を、誇りと愛着をもって守り続けるため、ちゅんちゅんウォークの開催や地域独自のサイクリングマップの作成などに取り組んでいる。田川サイクリングロードは、姿川サイクリングロードよりは広く走りやすいが、休憩設備等くつろげる

スペースがない。河川管理者である県と一体となって、使いやすく親しみを持てる河川環境を整備できないか。

回 答	所管課：交通政策課
------------	------------------

【市長】

ちゅんちゅんウォークは大変すばらしい大会であり敬意を表したいと思うし、サイクリングマップまで作成していただき、「自転車のまち」にふさわしいご協力に心から感謝申し上げます。

サイクリングロードが途中で途切れているので、市では今年度から田川、山田川の区間の一体整備を行っていきたいと考えている。

また、サイクリングロードを走行する方々からのトイレなどの休憩場所の設置の要望を受け、コンビニエンスストアなどをお願いをして自転車の休憩場所を設置している。これを「自転車の駅」と呼び、民間の方々のご協力により現在増設しているところである。

ご指摘いただいた田川サイクリングロードについては県が管理をしており、洪水等の際、被害が拡大しないように河川敷には原則として工作物を作っははいけないとなっている。しかし、県と相談をして管理上支障がないとなれば設置できると思うので、支障がないような休憩スペース、ベンチなどの設置が出来ないか県へ投げかけをしていきたいと思う。その状況がわかったらご連絡をする。

発 言 3	学校の見守り活動の見直しについて
--------------	-------------------------

平成17年の今市市（現日光市）の事件を受け、学校と連携した地域ボランティアによる見守り活動を実施していたが、約1年前に市からやらなくてもいいという話があった。見守り活動を行う人数が半減した自治会や見守り活動をやめてしまった自治会もある。

子ども達の安全意識や危機管理意識を高めるためだと思うが、最近、子ども達への事故や交通事故が増えており、そうしたことから以前のように見守り活動を行うことを再考する必要があるのではないかと思う。子どもは地域の宝であり、国の宝である。我々は一生懸命やりたいと思うのでもう一度市として考え直していただきたい。

回 答	所管課：学校健康課，生活安心課
------------	------------------------

【市長】

今市事件の時には県内全域が震撼するだけではなく、全国的に話題となり心配される方も多かったと思う。

事件を受け、教職員や地域の方のボランティアによる同行を主体とした見守り活動行っていた。

しかし、教職員や地域ボランティアが児童に同行する下校体制を維持することが難

しいという声や児童が身近な危険を予測して対応する力も育まなければならないというご意見をいただき、長期的に持続可能な体制の検討を行った。

その結果、平成20年度に、それまでの同行を主体とする活動から立哨や巡回を主体とする活動に切り替え、地域社会全体で見守る方法に変更した。もちろん保護者の方々にもご理解とご協力をお願いしたところである。

しかし、依然として不審者等の目撃情報があることから、保護者や地域と連携を図り見守り活動を継続するよう学校に依頼をしたところである。

学校や地域によって実情が異なるので、学校が地域の方々と連携した活動を再開していただけるように、教育委員会から学校へ依頼していきたいと考えている。

またスクールガードの代表の方にも定期的に集まっていただき、防犯に関する情報提供や各地域の情報の共有化を図ることを今後とも行っていきたいと考える。なるべく持続できる体制を取って行きたいと思うのでこれからもよろしくお願ひしたいと思う。

発言 4 自治会会員減少対策について

現在、宇都宮市の自治会加入率は70パーセントを切っていると聞いている。自分の自治会も単身世帯が増えてきている。さらに自治会を脱退したいという家庭もあり、自治会入ってもメリットがないという声もある。これから定年退職する60才半ばの方には自治会で力を発揮していただきたいと思うが、役員になりたくないなどあまり自治会に関心を寄せてもらえず、我々も非常に頭を痛めている。

皆、お互いに支え合って生きているのであり、良い雀宮にしていくために若い人の声を聞きたいと思っているが、自治会は任意団体なので我々の知恵では手が回らない。加入率をアップするための対策を市としても考えていただきたい。

回答 所管課：みんなでまちづくり課

【市長】

宇都宮全体での加入率は67.3パーセントとなっている。その中で雀宮地区は自治会の方々が会長を中心に、自治会加入率アップのため、様々な事業を行っていただいている。自治会加入促進モデルの地区になっていただいた、「身分証」を作成して臨戸訪問を実施された雀の宮下町自治会や、準会員制度を設置して企業や集合住宅への働きかけを行い、今年度に自治会活動表彰を受賞された針ヶ谷中自治会など、地区を挙げて加入促進活動に取り組まれている。

こうした活動が功を奏していると思うが、一人暮らしの高齢者住宅への見守り訪問も積極的に行っていただいている。

市としても市窓口や就学児健康診断の利用の際、集合住宅や一戸建住宅の建築確認の際に自治会加入の勧誘を行っている。また、栃木SCと連携した自治会員のホームゲーム無料招待、未加入者に自治会活動の意義や魅力を紹介するDVDの作成などに

取り組んでいる。

さらに今年度は、自治会活動の魅力を高めるため「自治会活動参加促進事業補助金」を創設し、高齢者の退会防止に繋がるよう、図書コーナーのあるカフェテラスの設置や、安全安心マップの作成などに活用いただいている。

やれることは徹底して行っていきたいと思うので自治会の会員の皆様方からも様々なアイデアをお願いします。

発言 5 うつのみや子どもかがやきプランについて

「うつのみや子どもかがやきプラン」を見ると、資料の中の「特別支援学校では」のところに肢体障がい者、知的障がい者については触れられているが、精神障がい者についても考慮していただきたいと思う。

精神障がいについては偏見を持っている人がたくさんいる。勤務場所でも100人に1人が発症するという病気であり、決して珍しくない病気である。

子どもの頃からこの病気について理解させることが大切であると痛切に感じている。この病気も早期発見、早期治療をすれば治る病気である。今、薬も非常に発達している。引きもこもりなどはどこの自治会にもおられると思う。家族だけで悩むことなく、行政機関で様々な窓口を開いているので、ぜひこのプランの中にも入れてもらいたいと思う。

回答 所管課：教育センター

【市長】

身体障がい、知的障がいに精神障がいを加えることが法律で義務付けられている。県も市も3障がいを一つと捉えて差別なく、区別のないように対応をしているところである。特に県の障がい者スポーツ大会において、精神障がいも入っており、宇都宮市の大会にも精神障がいも加えた3障がいと一緒に活動を行いはじめたところである。

ご意見にいただいた、精神障がいもプランに加えてほしいとのことであるが、なぜ入っていなかったのかを調べさせていただくとともに、3つの障がいは一つとして考えていかなければならないのでこれからもそういうところに留意をしながら進めていきたいと思う。

【後日回答】

※平成27年1月 発言者へ説明

リーフレットの中に書かれている「病弱」という表現に、精神障がいが含まれている。

特別支援学校の内、病弱特別支援学校の対象となる疾患は、「慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患」とされており（学校教育法施行令）、その他の疾患の具体例として、「うつ病や適応障害等の精神疾患」が示されている。（文部科学省：教育支援資料）

したがって、精神疾患については、病弱特別支援学校の対象となっている。

リーフレットでは、法令上の「病弱」という表現を使用しているが、今後は、よりわかりやすくするため、「病弱（精神疾患を含む）」という表現に改めていきたい。

発言 6 教育の重要性について

雀宮中央小学校の築山は長い間児童の体力づくりに使われていたが、学校長が変わった際に平らにされてしまった。また、桜の大木など全部切り倒してしまい、さらに、校庭も運動会が出来ないのではないかというほど狭くなってしまった。

一番大切なのは教育だと思うので教育に力を入れていただきたいと思う。

教員資格認定試験に合格後10年を経過してから免許状の申請を行う場合は教員免許更新制と同様の講習を修了しなければ免許状が授与されない。このことについて国や県へ働きかけていただきたい。

また、35人学級を40人学級にして、先生への報酬分の予算を別のことに回そうという話もある。ただ鶴呑みにするのではなく、何か働きかけをお願いしたい。

小学校の先生は1人でほとんど全ての勉強を教える。さらにダンスや柔道を教えなさいとなり、今度は英語も教えなさいと言う。様々な面から先生へかかる負担が多くなりすぎてしまい、帰宅が夜7時、8時になり、遅い時には10時頃になってしまうそうである。

何か良い方法を考えていただき、宇都宮に行けば素晴らしい教育が待っているというようにしてほしい。

回答 所管課： 学校教育課，生涯学習課，学校管理課，学校健康課

【市長】

地域の魅力というものはいくつかあると思うが、特に、人や企業を呼び込むには良い教育が受けられるかどうかというものがある。宇都宮市としては小中学校全て93校に司書と栄養士を配置したり、全小中学校の教室に冷暖房を設置したりして先生と子ども達の環境も良くしていく取組を行っている。

次に、築山については危険であるということと犯罪に繋がるというこれまでの事例を含めた理由から平らにしている。

桜の木は古くなると伐採しなければならない。どのような理由でそうなったのかは後で報告する。

最後に、先生の負担軽減ということで、市としても、教育委員会と校長会が協力をして今年2月に「児童生徒と向き合う時間の充実に向けた取組方針」を策定した。

これまでは子ども達に分かりやすい授業を行うために今まで模造紙に大きく書いていたが、教科書をかざせば子ども達全員が大画面で見ることが出来るデジタル機材を全クラスに設置をしたり、事務削減により余計な事務作業を減らしたり、先生が作った資料を映し出せる実物投影機を導入して、先生の仕事を軽減し、子ども達に向き合

う時間が少しでも増えるようにしている。

そのほかにも宇都宮市単独で昨年は約470名の指導助手(非常勤)等を配置した。先生が子ども達に情熱を注ぐことが出来る環境づくり、子ども達に分かりやすい授業、子ども達にとって良い環境づくりに励んでいる。これからも手を緩めずに行っていきたいと思う。

桜の木の伐採について【後日回答】

雀宮中央小学校南側の市道713号線拡幅工事に伴い、学校南側のフェンスや防球ネット、遊具などの移設工事を実施した。桜の木などの樹木についても、移植を検討したが、木の周辺に側溝が設置されており、根を痛めてしまうなど移植が困難であったため9本を伐採し、新たに6本の桜の木などを植樹したところである。